

ベルギーの犯罪発生状況

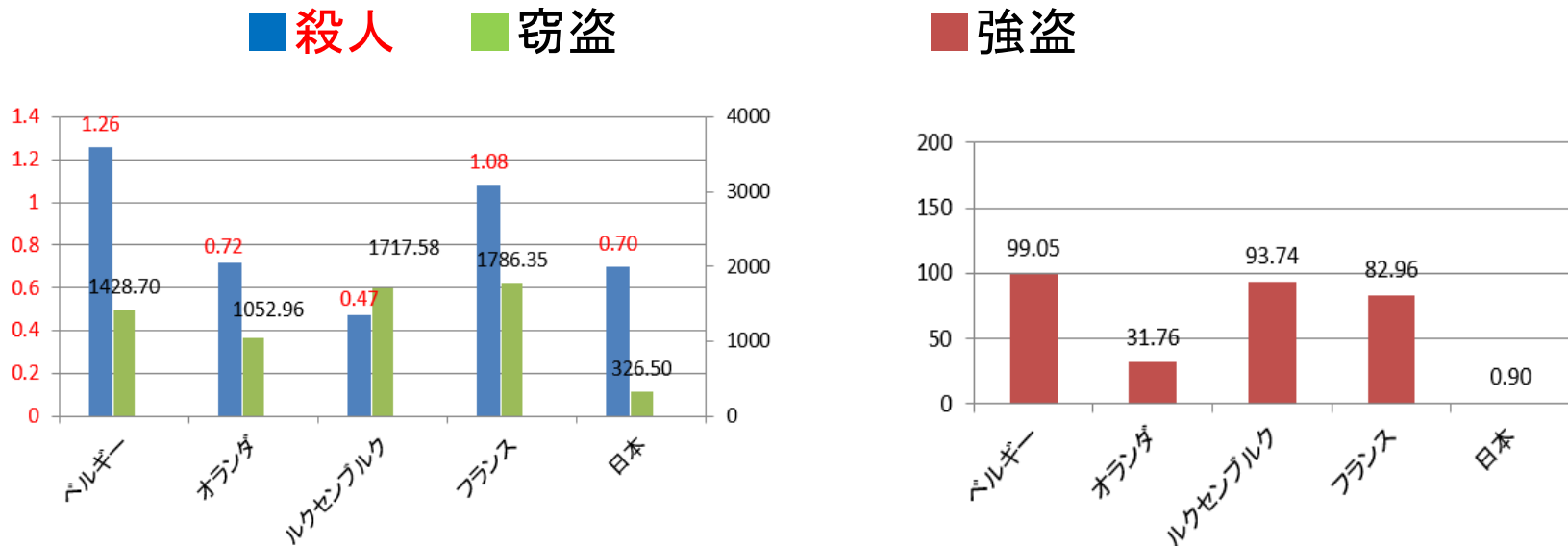
2024(令和6)年1月
在ベルギー日本国大使館

目次

- 1 ベルギーの犯罪発生状況
 - (1) 周辺諸国等との比較
 - (2) ベルギーと日本との比較
 - (3) ベルギー警察について
 - (4) ベルギー国内及びブリュッセル首都圏の犯罪認知件数
 - (5) 注意すべき犯罪：
ベルギーでの発生状況(2022年)
- 2 外出時の注意事項
- 3 ベルギーにおける警戒レベル

周辺諸国等との比較

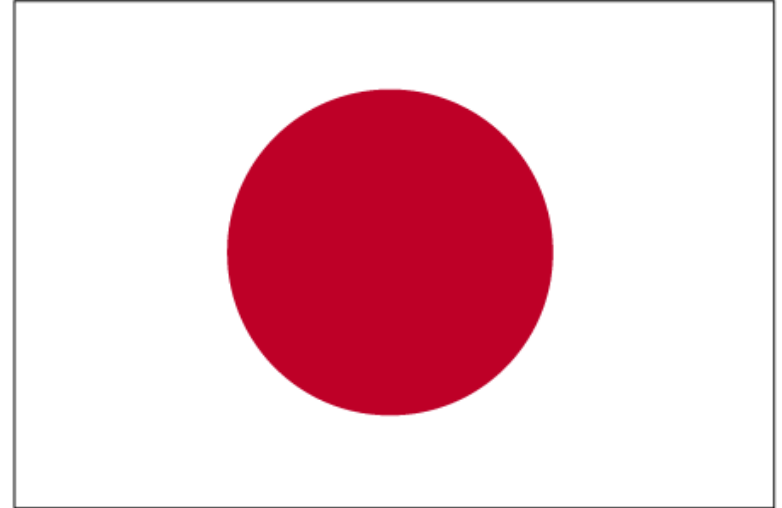
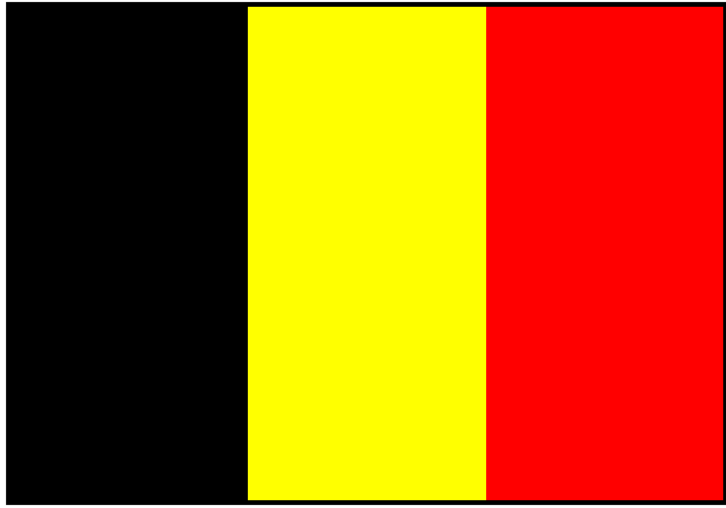
ベルギー周辺諸国等 人口10万人当たりの各種犯罪認知件数



*ベルギー、オランダ、フランスについては2021年、日本については2022年の値
(出典: Eurostat及び令和5年警察白書)

- ■ 強盗は周辺諸国を含めても多発している状況。
路上強盗は特に注意すべき犯罪。
- ■ 窃盗の発生水準は日本の約3倍以上で邦人被害も多数。

ベルギーと日本との比較



人口	11,697,557人
面積	30,528km ²
警察官	40,667人

人口	124,511,000人
面積	378,000km ²
警察官	259,171人

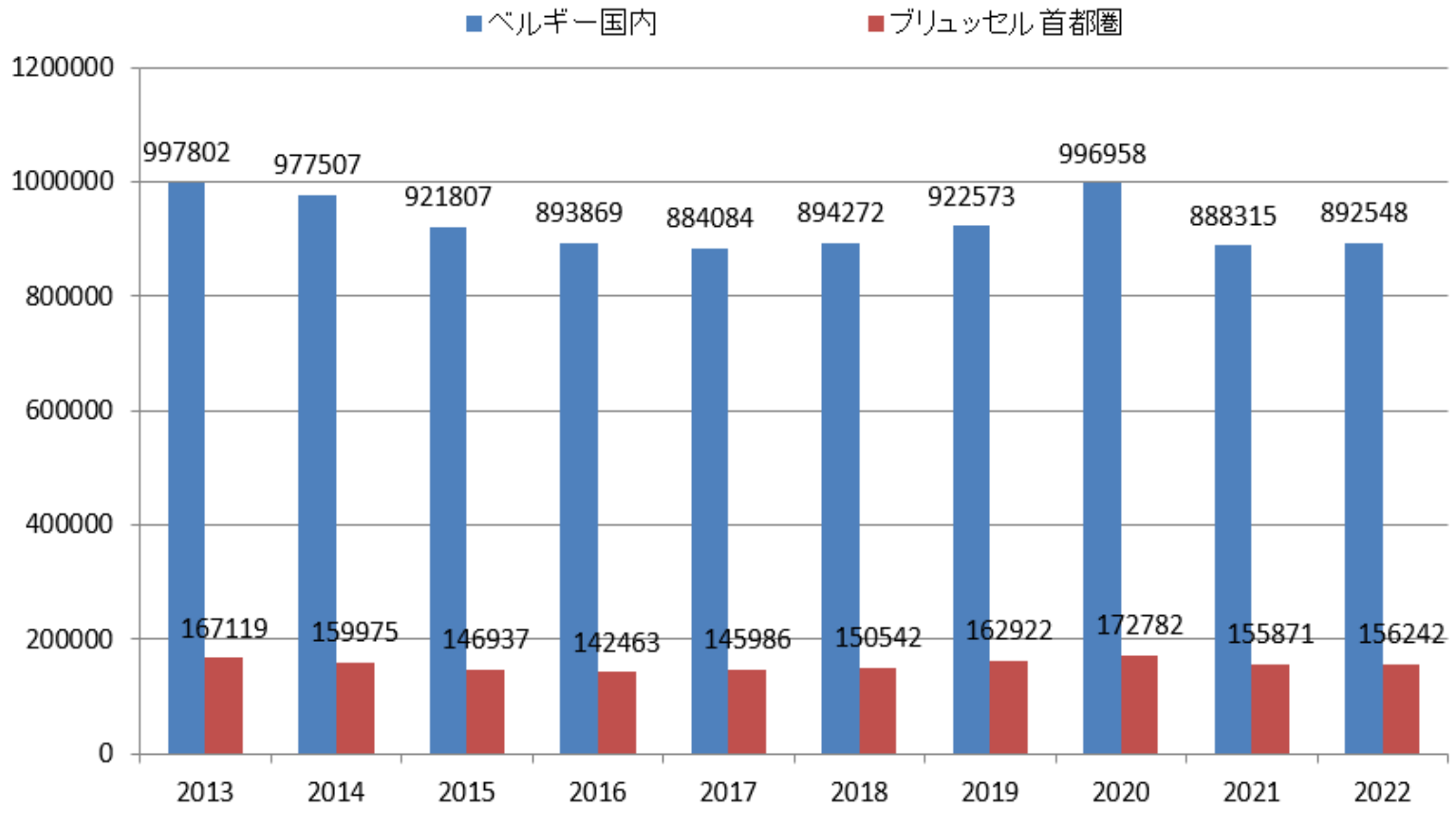
※出典:人口はSTATBEL(2023年)、ベルギー連邦警察、外務省HP、
総務省HP、令和5年警察白書

ベルギー警察について

- ベルギー警察は「連邦警察」と「地元警察」に区分される。
- すり、ひったくり、空き巣等の事件は、地元警察が捜査する。
- 殺人、誘拐、カージャック事件など、重大または複数の警察区域にまたがる事件は、連邦警察が捜査する。
- 事件の被害にあったら「101番」又は「112番」
112番 ~ 欧州域内共通の警察通報番号

ベルギー国内及びブリュッセル首都圏 犯罪認知件数

※出典:ベルギー連邦警察HP



○ ベルギーの犯罪認知件数は若干の上下があるものの、おおむね横ばい。

注意すべき犯罪：ベルギーでの発生状況 **2022年**

※注意すべき犯罪：発生件数が上位のもののほか、万一被害に遭った場合、被害回復が困難で精神的にも大きな打撃を受ける強盗を抽出。

ベルギー国内

犯罪認知件数	892, 548
侵入盗	50, 892
車上ねらい	38, 393
すり	23, 866
強盗(凶器なし)	13, 752

日本国内

601, 331	* 刑法犯認知件数
36, 588	
36, 590	* 車上ねらい、部品ねらいを合算
12, 927	* すり、置引き、仮睡者ねらいを合算
1, 148	* 凶器の有無は区別なし

ブリュッセル首都圏内

犯罪認知件数	156, 242
すり	14, 256
車上ねらい	13, 392
侵入盗	9, 644
強盗(凶器なし)	4, 981

東京都内

75, 288	* 刑法犯認知件数
3, 079	* 車上ねらい、部品ねらいを合算
1, 990	* すり、置引き、仮睡者ねらいを合算
2, 111	
228	* 凶器の有無は区別なし

※出典：ベルギー連邦警察HP、警察庁HP

※出典:ベルギー連邦警察HP(2022年)

すり

~首都圏内認知件数第1位

ブリュッセル

6,363件

(昨年比+2,641件)

サン・ジル

1,783件

(昨年比+745件)

W.S.ランベール

146件

W.S.ピエール

99件

アンデルレヒト

891件

オーデルゲム

123件

ユックル

177件

イクセル

1,550件

(昨年比-64件)

W.ボワフォール

36件

- ブリュッセル地区、サン・ジル地区で急増。
- 貴重品は大きな荷物の中には入れず、バッグのチャックは締めて体の前で携帯する。
- 店内や人混みでは要注意。夜間の一人歩きは避け、人や車の往来が多い道を選ぶ。

※出典:ベルギー連邦警察HP(2022年)

車上ねらい ~首都圏内認知件数第2位

ブリュッセル

4,110件

(前年比+917件)

サン・ジル

1,037件

アンデルレヒト

1,822件

(前年比-76件)

ユックル

446件

イクセル

1,233件

(前年比-64件)

W.S.ランベール

189件

W.S.ピエール

153件

オーデルゲム

208件

W.ボワフォール

181件

- ブリュッセル地区で急増。
- たとえ短時間でも駐車車両の中には、貴重品を絶対に放置しない。
- 夜間に路上駐車はせず、昼間でも人気のない裏路地での駐車は避ける。

侵入盗

※出典:ベルギー連邦警察HP(2022年)
~首都圏内認知件数第3位

ブリュッセル
1,879件
(前年比+418件)

W.S.ランベール
483件

サン・ジル
494件

W.S.ピエール
344件

アンデルレヒト
709件

オーデルゲム
348件

ユックル
1,068件
(前年比+162件)

イクセル
1,073件
(前年比+124件)

W.ボワフォール
246件

- ブリュッセル首都圏全体で増加傾向。
- 住居の選定に関しては、地域の選定に加え、物件の弱点を補うことが重要。
- 住居の安全のため、帰宅時は住居周辺の不審者・不審車両の存在をチェック。

ベルギー連邦警察HP掲載 統計資料

- 「police fédérale belgique statistiques」等で検索、「Accueil/Statistiques-police.be」にアクセス。
- 画面上部のタブ「Criminalité」を選択。
- 「Statistiques de faits criminels」(犯罪統計)のを選択。
- 地図データを伴う「Tableau」(グラフ)や「Carte」(地図)を選ぶと、居住地等の犯罪発生状況を確認できる。

外出時の留意事項

当局は犯罪やテロの抑止に全力を尽くしており、ベルギー国内及びブリュッセルは、他の欧州の国や都市と同等の安全が確保されているが、以下のような人が多く集まる場所では注意が必要。

- ・市場、ショッピング・モール
- ・公共交通機関（電車、バス、トラムの車内）
- ・観光地、コンサート会場、スポーツ競技場
- ・空港、駅

など

ベルギーにおける警戒レベル

ベルギーに対するテロ等の脅威については、脅威度分析調整機関(OCAM)が、警察等の治安機関から報告された情報に基づいて分析・評価している。

- レベル1(わずか)
テロは発生し得ない又はテロの脅威が存在しない。
- レベル2(普通)
テロが発生する可能性は小さい。
- レベル3(重大)
テロの可能性があり、発生し得る。
- レベル4(とても重大)
非常に危険な状態であり、事態は切迫している。

10月16日の銃撃事件以降の動向

事案概要

10月16日午後7時15分ころ、ブリュッセル・地下鉄Yser駅近くで、犯人はスウェーデン・サッカーサポーターに向けて、自動小銃で発砲、2名が死亡し、1名が負傷。

事件発生後

- ブリュッセル首都圏のテロ脅威度は2→4
(2段階引き上げ)
- ベルギー全土のテロ脅威度(ブリュッセル首都圏を除く)は2→3
(1段階引き上げ)

翌日10月17日朝に犯人を無力化、午後には

- ブリュッセル首都圏のテロ脅威度は4→3
(1段階引き下げ)
- ベルギー全土のテロ脅威度は3
(格付けを維持)

最後に

- 欧州は日本より、特に置引き、スリ、車上狙いなどのリスクは圧倒的に高いです。
→基本的な防犯対策でリスクは軽減できます。
- 欧州全体でテロの脅威が上昇しています。
→適切な警戒心、正確な情報の収集、冷静な行動が必要です。